

果樹の生育状況について

I 気象（三戸アメダス、8月～）

気温は8月上旬が平年より高かったが、8月中旬がかなり低く、8月下旬が平年並、9月上旬が低かった。特に8月第3半旬の最高気温は平年より10.0℃低かった。

日照時間は8月が平年比85%、9月上旬が同132%であった。

降水量は8月が平年並であったが、降雨のあった日が21日と多く、9月上旬が平年比17%とかなり少なかった。

II 生育状況

1 りんご

9月11日時点の「ふじ」の果実肥大は、三戸町梅内で平年比100%、八戸市櫛引で平年比101%であった。果実肥大は、園地や品種によりばらつきがみられる。

「つがる」の収穫始めは、三戸町梅内で平年より5日早い9月7日であった。一部園地で斑点落葉病がみられる。

表1 りんごの果実肥大（単位：cm、%）

地点	品種	年	6/1	7/1	8/1	9/1	9/11
三戸町 梅内	ふじ	本年	2.1	4.4	6.2	7.5	7.8
		平年	1.5	3.9	6.0	7.5	7.8
		前年	1.4	3.9	5.9	7.1	7.7
		平年比	140	113	103	100	100
	つがる	本年	2.5	5.6	8.0	9.3	—
		平年	1.7	4.5	7.1	8.7	9.0
		前年	1.7	4.8	7.1	8.3	8.7
		平年比	147	124	113	107	—
	ジョナ ゴールド	本年	2.4	5.1	7.0	8.1	8.3
		平年	1.7	4.4	6.6	8.1	8.4
		前年	1.7	4.5	6.5	7.8	8.2
		平年比	141	116	106	100	99
八戸市 櫛引	ふじ	本年	1.9	4.3	6.1	7.4	7.7
		平年	1.5	3.9	5.8	7.3	7.6
		前年	1.6	4.2	6.2	7.7	8.0
		平年比	127	110	105	101	101

平年値：平成13年～令和2年までの平均

2 ぶどう

露地栽培「キャンベル・アーリー」の収穫始めは、三戸町梅内で平年より11日早い8

月 24 日であった。8 月の降雨により晩腐病が散見される。

3 もも

「川中島白桃」は、南部町相内で収穫始めが平年より 3 日早い 8 月 26 日、収穫終わりが 7 日早い 8 月 31 日であった。一部園地でせん孔細菌病の発生がやや多い。

4 西洋なし

「ゼネラル・レクラーク」の収穫始めは、農協聞き取りによると例年より 5 日早い 9 月 10 日であった。

一部園地で輪紋病がみられる。

Ⅲ 今後の対策

1 共通事項

(1) 風害防止対策

台風等に備え、防風網や樹の結束などについて点検し、補強や取替えを行う。また、台風情報に注意し、収穫適期を迎えたものは、収穫が遅れないようにする。

2 りんご

(1) 着色手入れ

ア 実施時期

着色手入れ（葉摘みや玉回し）の実施時期は、表 2 のとおりである。

表 2 主な品種の着色手入れの時期

品種	着色手入れの実施時期
紅玉	9 月 15 日～9 月 30 日頃
ジョナゴールド（無袋）	9 月 20 日～10 月 10 日頃
ふじ（無袋）	9 月 25 日～10 月 25 日頃

イ 葉摘み

収穫まで 2 回程度に分けて行う。初めは果実に密着している果そう葉を主体に摘み取り、その後、玉回しを兼ねて、光が十分に当たるよう果実周辺の葉を摘み取る。

早くから強く行くと鮮やかな色が着かないばかりか食味が低下し、日焼け果の発生も多くなるので適期に実施する。

摘葉剤ジョンカラプロを利用する場合は、「ふじ」のみとし、使用時期は「収穫 40～50 日前」（例年では 9 月 15 日～9 月 24 日頃）とする。散布後 30 日間は収穫できないので注意する。

(2) 収穫

早生種の熟度が例年よりかなり早まったことから、中・晩生種の熟度も早まる可能性

があるので、農協の目揃会や県の生産情報等を参考にして適期に収穫する。

なお、「トキ」などの黄色品種は、着色の判定が難しいので「標準カラーチャート」を活用する。

また、ビターピットが発生している園地では、収穫が早すぎると貯蔵中の発生が多くなるので適期に収穫する。

3 もも

せん孔細菌病対策として、新梢に発生する夏型枝病斑は切り取って処分する。また、翌年の一次伝染源となる春型枝病斑を減少させるために、収穫後の「9月中旬(川中島白桃収穫後)」と「9月中旬散布の2週間後頃」の2回、防除剤を必ず散布する。

4 西洋なし

「ゼネラル・レクラーク」は、収穫が遅れると内部褐変などが発生するので、地色などを確認してすぐりもぎする。